

平成24年度第2回私立学校審議会議事録

(平成24年8月9日掲載)

- 1 日 時 平成24年6月18日(月) 午後1時30分～午後3時45分
- 2 場 所 県議会議事堂B02会議室
- 3 出席者
(委員) 山田紀彦、古屋忠彦、山口博伸、中沢悦理、池田政子、矢澤ひろ子、田中佑幸、鈴木信行、伊藤祐寛、平井貴美代、鶴田美津枝 出席
11人/定数12人
(事務局) 私学文書課
前嶋課長、芦沢総括課長補佐、小林課長補佐、遠藤主幹、天野副主幹、伊藤主任、金丸主事

4 審議の経過

- (1) 事務局において定数を満たしていることを確認し、開会を宣言する。
- (2) 会長あいさつ
- (3) 議長選出については、運営規程に基づき山田会長とする。
- (4) 議事録の署名人は、矢澤委員、伊藤委員に決定する。
- (5) 議事等の審議

5 諮問事項

第1号議案 甲府みなみ幼稚園に係る学校設置計画について

第2号議案 山梨学院大学附属小学校の収容定員に係る学則変更について

6 議事の概要

- (1) 第1号議案 甲府みなみ幼稚園に係る学校設置計画について

委員：保育所機能部分の規模は適正か。

事務局：現段階での計画では保育所部分の定員は71名である。

委員：甲府市では新設の保育所は認めていないはずである。

事務局：無認可で行うとのこと。

委員：認定こども園とは？

事務局：認定こども園とは教育と保育の両方の機能を持った施設である。認可の幼稚園と認可の保育所からなる幼保連携型、認可の幼稚園と無認可の保育所からなる幼稚園型、無認可の幼稚園と認可の保育所からなる保育所型がある。甲府みなみ幼稚園は無認可の保育所が併設される幼稚園型を予定している。今回は安心こども基

金を活用する。5年以内に認定こども園に移行する施設が、耐震化を図る整備を行う際に1/2の補助を受けられるという制度である。それまでも似たような制度があったが、市町村負担が必要であり、それがネックになっていた。

委員：幼稚園全体の動向はどうなっているのか。

委員：認定こども園は国の施策として全国で2,000園を目指している。県内では3園の認定こども園がある。最近ニュースで話題になっているが、民主党が提案した「総合こども園」がなくなり、自民党政権時代に出来た「認定こども園」を改善される方向となった。色々な形で財政措置がされて幼稚園が認定こども園に参入しやすくなっていくことが予想される。耐震化のために幼稚園に1/2の補助が出ることは画期的なことである。先ほど話があったように市町村の理解が得られなくて認定こども園化が進んでいないが、市町村の協力がなくても1/2の負担で移行できることとなり、推進の起爆剤になるであろう。

委員：待機児童は県内にどのくらいいるのか。

事務局：待機児童については甲府市内が一番厳しい状況であるが、甲府市内でもいないという状況である。

委員：待機児童対策で保育所は定員の125%まで収容して良いということになっている。甲府市を中心に周辺の保育所は、ほとんどが125%入っているという状況である。定員で切るとかなりの人数が待機児童になる。待機児童とは、入所の申請書を主管課が受理し、その上で入園できないと断った場合に、待機児童となる。甲府市に限った話であるが、入所希望者のほとんどが各園を訪れて、そこでOKが出るかを確認してから空いていれば書類を整えて、保育所から甲府市に上げる形をとっている。保育所がOKを出した子どもしか甲府市の主管課に届かない。待機児童が出ない受け付け方をしている。非常に問題だと思うが、これが現状である。待機児童がいないはずなのに保育所に入れないとやっている家庭がたくさんあるのが現状である。幼稚園はそういうお子さんの一部を預かり保育等の機能を活かしてカバーしている。

委員：甲府市以外もそのような状況なのか。

委員：市町村の財政状況によって異なる。また首長の考え方によって、民間に任せて、公立の定員を減らそうとしている動きがある市町村もある。最終的には待機児童の問題よりも、市町村の考え方によって変わる。

委員：全国どこでも同じ水準の幼児教育が受けられないとおかしい。首長の考え方によって左右されるところは最小でなければならない。

第1号議案については、全員一致で認可することが適当である旨、答申された。

(2) 第2号議案 山梨学院大学附属小学校の収容定員に係る学則変更について

委員：児童減少の中、定員を増やすというのは、周りにも影響が出る。調査はしているのか。定員を超えているから、定員を増やすのであれば他の学校も増員してくるだろう。

事務局：調査はしていない。設置基準を満たすものを制限する根拠がないので、審議会の意見を参考にしたい。少子化の現状は十分把握しているが、基準を満たすものはあげざるをえない。

委員：前回の高校の時も同じだが、他の学校にどういった影響が出るか調査すべきである。

委員：過去、山梨県では小学校は山梨大学附属小を除いて選択肢がなく、地域の小学校に行くしかなかった。私立の小学校が出てきたのは喜ばしい。小学校に関して言えば、県内にはまだ3校しかない。公立との競争になるというレベルにまで達していない。小学校に関して言えば、全く議論にならないだろうと思う。また、認可定員に関して、最初の30人から3人増えることでコンセプトがどのように変わったのか、または影響がないのかを伺いたい。

委員：当初はコンパクトで丁寧な教育のため1クラス30名とした。反響があり成功したと言える。また、既存の学校への影響を考えることは筋のある話であるが、審議会は是々非々で判断すべきである。社会的な要請により増員とした。

委員：認可定員は60名であるので、それを守るのが当たり前である。入学志願者のうち、附属幼稚園からの進学者は何人か？

事務局：附属幼稚園からの進学者は40人くらいである。

委員：10年やってきて66名という数がちょうど良いという結論になった。

委員：元々30名で非常に理想的な人数に設定されている。1割増やして33名になっても、公立の35名よりかは少ないので審議上は全く問題ないと思っている。

第2号議案については、全員一致で認可することが適当である旨、答申された。